

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	仮称)レジデンス平山西立体駐車場	階数	地上2F
建設地	愛知県豊田市	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、法22条区域	平均居住人員	0人
気候区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年11月7日
敷地面積	6,322 m ²	作成者	伊藤 みゆき
建築面積	4,562 m ²	確認日	2017年11月7日
延床面積	9,085 m ²	確認者	伊藤 みゆき

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ (30%)

標準計算: ①参照値 100%, ②建築物の取組み 62%, ③上記+②以外の 62%, ④上記+ 62%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境 (敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.3

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.5

③敷地内の緑化

4.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) **57.7%**

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) **0.0%**

②資源の有効活用

2.9

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料> なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積 (建築面積及び附属物面積) を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

3 対応性・更新性				3.3	0.48				3.3
3.1 空間のゆとり				2.6	0.31				
1 階高のゆとり				1.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率<0.1	5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				4.3	0.38				
1 空調配管の更新性		②		-	-				
2 給排水管の更新性				-	-				
3 電気配線の更新性			仕上材を傷めることなく、電気配線の更新・修繕ができる	5.0	0.33				
4 通信配線の更新性				-	-				
5 設備機器の更新性			設備機器更新時に仮設スペースが確保でき、建物機能を維持できる	4.0	0.67				
6 バックアップスペースの確保				-	-				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57				3.3
1 生物環境の保全と創出		独自③	外構緑化指数50%以上、適切な緑地作りを行っている	4.0	0.30				4.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30				3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上			緑被率 30%以上	4.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.4
LR1 エネルギー					0.40				3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制									
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28				3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm≤0.6	5.0	0.43				5.0
4 効率的運用				3.0	0.29				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
集合住宅の評価									
4.1 モニタリング									
4.2 運用管理体制									
LR2 資源・マテリアル					0.30				2.8
1 水資源保護									
1.1 節水									
1.2 雨水利用・雑排水等の利用									
1 雨水利用システム導入の有無									
2 雑排水等利用システム導入の有無									
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.74				2.7
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		②	-	1.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上材が容易に分別可能	4.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.26				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	1.00				
3.2 フロン・ハロンの回避									
1 消火剤									
2 発泡剤(断熱材等)									
3 冷媒									
LR3 敷地外環境					0.30				3.5
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物(参考値)の56%	4.5	0.33				4.5
2 地域環境への配慮				3.0	0.33				3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼器具を使用しない	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.33				
2 汚水処理負荷抑制									
3 交通負荷抑制		独自	立体駐車場により、適切な駐車スペースを確保	5.0	0.33				
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.33				
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33				3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									
1 騒音		独自							
2 振動		独自							
3 悪臭									
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.67				
1 風害の抑制									
2 砂塵の抑制									
3 日照障害の抑制				3.0	1.00				
3.3 光害の抑制				3.7	0.33				
1 屋外照明及び屋内照明の3つ外に漏れる光への対策			日影規制を満たしている	4.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

(仮称)レジデンス平山西立体駐車場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.5	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.22	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.17	外構緑化:57.69%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

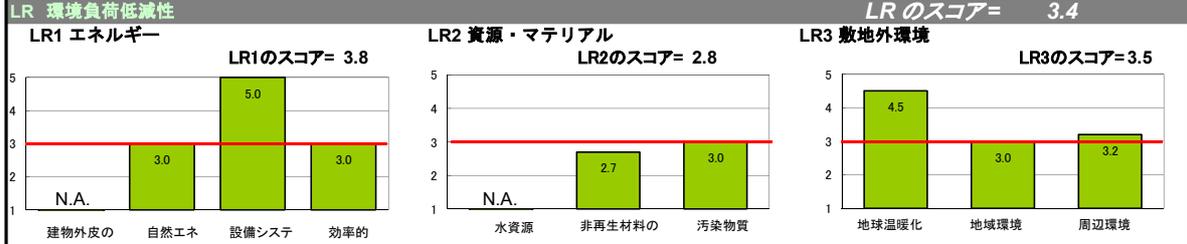
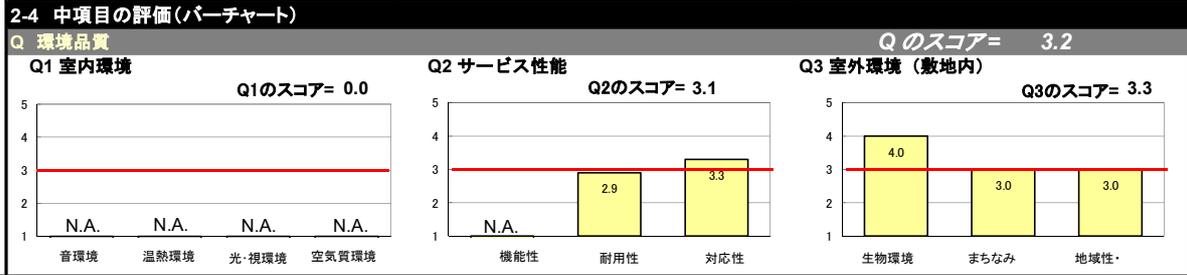
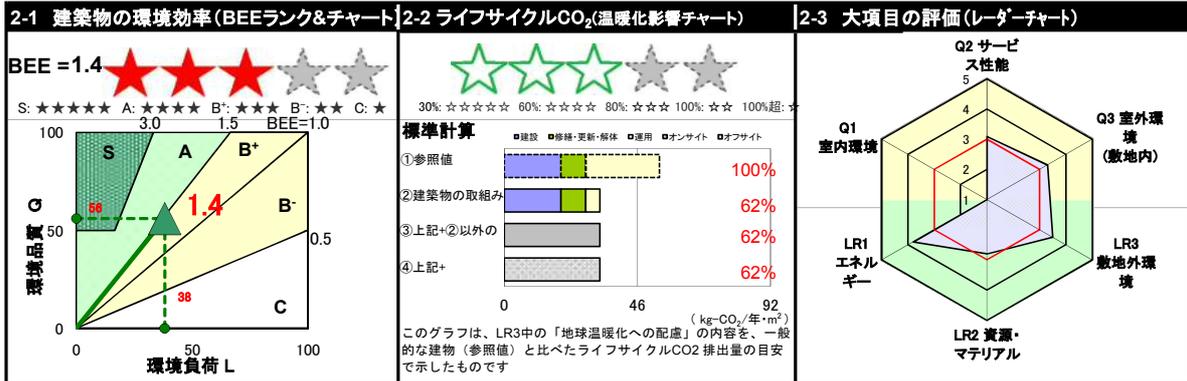
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 仮称)レジデンス平山西立

計画上の配慮事項	
総合	居住者の利便性と近隣の渋滞を回避する為、十分な駐車スペースを確保した。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	鋼製手摺は、溶融亜鉛メッキ仕上とし、耐候性に配慮
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。 ・敷地廻りには、緑地を設け、豊かな自然環境を目指すとともに、近隣の景観に配慮
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・高効率設備機器を採用(LED照明)
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・躯体と仕上が容易に分別ができるよう配慮
LR3 敷地外環境	適切な駐車スペースを確保。
その他	

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	仮称)レジデンス平山西立体駐車場	階数	地上2F
建設地	愛知県豊田市	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、法22条区域	平均居住人員	0人
気候区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年11月7日
敷地面積	6,322 m ²	作成者	伊藤 みゆき
建築面積	4,562 m ²	確認日	2017年11月7日
延床面積	9,085 m ²	確認者	伊藤 みゆき



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">###</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>57.7 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	57.7 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	57.7 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">###</p> <table border="1"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

3	対応性・更新性			3.3	0.48				3.3
3.1	空間のゆとり			2.6	0.31				
1	階高のゆとり			1.0	0.60				
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率<0.1	5.0	0.40				
3.2	荷重のゆとり			3.0	0.31				
3.3	設備の更新性			4.3	0.38				
1	空調配管の更新性	②		-	-				
2	給排水管の更新性			-	-				
3	電気配線の更新性		仕上材を傷めることなく、電気配線の更新・修繕ができる	5.0	0.33				
4	通信配線の更新性			-	-				
5	設備機器の更新性		設備機器更新時に仮設スペースが確保でき、建物機能を維持できる	4.0	0.67				
6	バックアップスペースの確保			-	-				
Q3	室外環境(敷地内)			-	0.57				3.3
1	生物環境の保全と創出	独自③	外構緑化指数50%以上、適切な緑地作りを行っている	4.0	0.30				4.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④		3.0	0.40				3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30				3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		2.0	0.50				
3.2	敷地内温熱環境の向上		緑被率 30%以上	4.0	0.50				
LR	建築物の環境負荷低減性								3.4
LR1	エネルギー			-	0.40				3.8
1	建物外皮の熱負荷抑制				-				-
2	自然エネルギー利用			3.0	0.28				3.0
3	設備システムの高効率化		BEIm≤0.6	5.0	0.43				5.0
4	効率的運用			3.0	0.29				3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00				
4.1	モニタリング			3.0	0.50				
4.2	運用管理体制			3.0	0.50				
	集合住宅の評価								
4.1	モニタリング								
4.2	運用管理体制								
LR2	資源・マテリアル			-	0.30				2.8
1	水資源保護				-				-
1.1	節水				-				-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用				-				-
1	雨水利用システム導入の有無				-				-
2	雑排水等利用システム導入の有無				-				-
2	非再生性資源の使用量削減			2.7	0.74				2.7
2.1	材料使用量の削減			3.0	0.07				
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24				
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	3.0	0.20				
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	②	-	1.0	0.20				
2.5	持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.05				
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上材が容易に分別可能	4.0	0.24				
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.26				3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	1.00				
3.2	フロン・ハロンの回避				-				
1	消火剤				-				
2	発泡剤(断熱材等)				-				
3	冷媒				-				
LR3	敷地外環境			-	0.30				3.5
1	地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物(参考値)の56%	4.5	0.33				4.5
2	地域環境への配慮			3.0	0.33				3.0
2.1	大気汚染防止		燃焼器具を使用しない	5.0	0.25				
2.2	温熱環境悪化の改善			2.0	0.50				
2.3	地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25				
1	雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.33				
2	汚水処理負荷抑制				-				
3	交通負荷抑制	独自	立体駐車場により、適切な駐車スペースを確保	5.0	0.33				
4	廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.33				
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33				3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止				-				
1	騒音	独自			-				
2	振動	独自			-				
3	悪臭				-				
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.67				
1	風害の抑制				-				
2	砂塵の抑制				-				
3	日照障害の抑制			3.0	1.00				
3.3	光害の抑制			3.7	0.33				
1	屋外照明及び屋内照明の3つ外に漏れる光への対策		日影規制を満たしている	4.0	0.70				
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30				

重点項目スコアシート

(仮称)レジデンス平山西立体駐車場

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.5	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.22	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.17	外構緑化:57.69%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 仮称)レジデンス平山西立

計画上の配慮事項	
総合	居住者の利便性と近隣の渋滞を回避する為、十分な駐車スペースを確保した。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	鋼製手摺は、溶融亜鉛メッキ仕上とし、耐候性に配慮
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。 ・敷地廻りには、緑地を設け、豊かな自然環境を目指すとともに、近隣の景観に配慮
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・高効率設備機器を採用(LED照明)
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・躯体と仕上が容易に分別ができるよう配慮
LR3 敷地外環境	適切な駐車スペースを確保。
その他	